

初等
小學

修身入門

木澤成基編輯

二

277
2
21

K110.1
42
2

木澤成恭編輯

再版
初等
小學
修身入門

版權免許

中外堂發兌



卷の二

木澤成恭 編輯

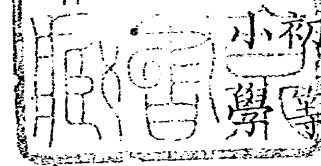
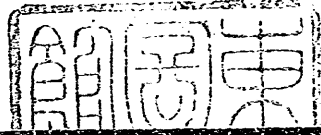
○兄は弟を助け、弟は兄より順ふ、
之と悌の道といふ、

○兄弟は同胞の親しみ、父母より

木澤成肅編輯

再版
初等
小學
修身入門

版權免許
中外堂發兌



卷の二
木澤成肅 編輯

○兄は弟を助け、弟は兄に順ふ、
之を悌の道といふ、

○兄弟は同胞の親しみ、父母に

次ぎたる、天倫なり、

○兄弟姉妹の、離るべからざる
は、十本の指此如し、

○兄弟互に親睦して、保護する
は、重大ある、義務なり、

○兄を弟を慈愛し、弟は兄と尊

敬すべし、

○兄弟姉妹、互に親睦するは、其、
家繁昌の基なり、

○兄弟相争ふは、一家の亂れお
り、

○兄弟互に、名譽幸福を祈るべ

し、若し過失阿らば、共々補助
まべし、

○兄弟姉妹、互々遠地、離れ住
むとも、安否を音づれて、親情
を通ずべし、

○弟と妹と、あはまみを加へ、

あるかせよせざるは、兄と姉
との行ふべき禮あり、

○兄と姉とを敬ひて、よく事ふ
るは、弟と妹とに守るべき禮
なり、

立志

○人として志しと立てざれば、
百事成ることなし。

○棒など願ふて、針など叶ふ、
兎角志は大なるべし。

○精神一たび到らざれば、
何事うな
らざらん。

○困難甚しけれども、愈^や勞苦を爲
まべし、困窮の爲よ、志と屈す
處のらば、

○危険甚しければ、愈^や憤發して、
勇氣と顯まべし。

○忍耐を、快樂を得るの基ふて、

安逸を、苦勞と得るの本あり。
○貧苦に遇はざるは、却て不幸
の人と謂ふべし。

○風雪を経過せざれば、春花と
開くおとなし。

○天才を恃まざれば、人力と盡
すべし。

○小なる事は、分別せよ、大なる
事は、驚くべからば、

○其進むこと、鋭き者の、其退く
おと速うなり、

○惡衣惡食と、耻づるものは、共

よ謀るふ足らず、

○盤根錯節に遇ざれば、以て利器と分つおとあし、

○道近しや、雖歩まざれば、其所よ至らず、事小なりと雖、爲さざれども、其業と就きことあし、

○人總て善と爲まの、阻礙となるも、此よ克ち、道に従ふと、剛志といふ、

○人の身體あるは、其精神の欲する所を行ふ爲めあり、

○窮困は、思慮と興起し、事業を

創造する母なり、故に富貴の人より、窮困の人却て業を成就はるることあり、

○安佚と才徳とは、兩立せざるを此あり、人已の才徳を賤して、安佚を買ふ者あり、悲ひる

か

○一を貫く、の精神を以て、何事も成就し得らるべし、憤發切立するものと、真に英才といふ、別よ一種の英才あるふあらん、

○眞實に勉強する人、失敗も逢へば、良師に教訓を受くるが如く、顧み勵む。

○豫め此事を爲さべしと志を定めたるものも、必ず善く爲さことを得る。

○豫め志を定めざるものは、踏つき、困るも空あり。

○夫れ志を定むるは、方は正理剛毅に在るのみ、其志耳目口鼻の欲に向へば、心志を惡鬼となる。

○其心志義理の正よ向へば、心志を君主とあり、才智は福祥を益すの宰相となる。

○事と始むるの前よ、先づ其行ふべきや否と思量し、行ふべき事はあらざれば、為さざれば、

○事を為さんと欲するの時は、堪ゆべからざる、辛苦よ遇ふと雖も、之を為し成就せざれば、置らば、

生業

○家と治むるの要は、勤と儉と

又、

○ 勉業の人は、朝寝と晝寐をい
まゝ、

○ 儉約は、安泰の基本となり、慈
愛の根源とある、

○ 驕奢は、借金の種類まき貧窮の

媒ふる、

○ 身分又過ぎたる、福を求めん
とすれば、却て禍を招くべし、

○ 事務を勉強する人は、其功を
積み、國王の前又立つ出と
を得らるべし、

○節儉と、勤勞とは、人として志を遂げしめ、往々富貴を得せしむ

○工事を、勤勞せれば、たとひ勞苦の業たるも、中々無量の樂あり、

○節儉の要務は、僅少の利は勉めんよりは、僅少の費を省くべし、

○人は損害を加へず、正直は生業を爲し、吾身は屬せざる、金を求むるあられ

○正しき生業を爲す人は、其業卑賤あつても、天も耻づるところなく、人も愧づるあやなし、徒も手を空しくして、業を勉めざる人は、耻づるゝこと甚し。

○人として、一日の飯を食せば、一日の業をなし、其食を得る事と心掛け、苟も手を空しくして、金銭を費すべからず、人の一生は、重荷を擔ふて、遠き道も行くが如し、不自由と

修身入門卷二
常々思へば不足なし

○毎日力行して衣食するは天下の公法ゆして人の義務を盡すとすむ又道理も通ずることもふべし

○己の本意を遂げ畢竟の幸福を受用せんとするよりは其職業を行ふべし其職業を行んとするは己の家産己の智力己の性質も適當したる業と擇び勉むべし

○勤勞の功を積み富貴を得る

は、真の富貴なり、専ら富貴と
貪れば、必ず害あり、不義よし
て富かつ貴きは、浮雲の如し、
○天より、人より利を得せしむる
爲に、萬物を生ず、故に産業を
勉強して、其利益を求めつし、

然れども一人の私するもの
は非ず、天下の公物なり、

修徳

○善は、即ち正直なり、正直は、即
ち善なり、

○善惡を別つ心を、良心といふ、

○和げば仇なし、忍べば辱なし、
 ○堪忍は無事長久の基なり、
 ○欲心盛ふれば、心常々散亂也、
 ○慈悲は家と治むるの、石垣あり、
 ○我儘は、身を害するの、矢玉なり、

里、

○口は、禍の門なり、猥りふ開く
 こゝろあられ、
 ○言葉多きは、過失多し、能く慎
 むべし、
 ○常々己の行を省みて、言語と

慎むべし、

○人遠き慮りなるとも、近きは必ず
近き憂初阿里、

○禍福は門あり、唯人の招く所
ふあり、

○小事といつども、忽せよ爲す

づあらば、

○千丈の堤は、蝼蟻の穴より潰
ゆ、

○己の情欲を制して、之より克つ
は、大敵ふ、勝つよはさる、

○其身を脩めんと欲するもの

は、先づ其心を正しくは、

○道學なられば、藝多しとい

ども、根本たらず、君子と謂ふ

づらば、

○善を積むの家は、必ず餘慶

あり、不善を積むの家は、必

ず餘殃あり、

○善を為す者は、天_レ之_レに報ゆる

よ、福を以てし、不善を為すも

のハ、天_レ之_レに報ゆるよ、禍を以

ては、

○鸚鵡よく言ふとも、飛鳥と離

K112.1

修身入門卷二

れず、猩々よく言ふとも、走獸
を離さず、人をして禮あけれ
ば、禽獸の心ならずや

初等
小學
修身入門卷の二終

明治十四年九月十七日版権免許
同年十月出版
同 十六年五月十五日再版御届

定價八錢

編輯人

東京府士族
木澤成康

出版人

平民
鈴木寛
麹町區三番町十番地

發兌人

同
柳川梅次郎
日本橋區本町三丁目十番地

初等
小學

修身入門

木澤成恭編輯

三

K110.1
42
B